



# 夏みかん・甘夏

甘酸っぱい香りが、初夏の風を運ぶ“山口県原産”のジューシーな果実

夏みかん・甘夏は、他の果実と同様にビタミンCが非常に豊富です。また、みかんに比べて酸味が約2倍あり、これはほとんどがクエン酸で、疲労回復や動脈硬化を防止する効果があります。

江戸時代に山口県長門市で偶然発生した「なつみかん(ナツダイダイ)」は、明治時代以降士族に栽培を奨励したことによって、栽培面積が広がりました。現在では、「川野ナツダイダイ」などの、いわゆる「甘夏」が中心に栽培されています。

昭和29年には郷土を象徴する花として、夏みかんの花が県花に選ばれました。初夏の萩市を歩くと、城下町の白壁や土塀から黄色く実った夏みかんが見え、萩の歴史に彩りを添えています。



## 🍊 選び方

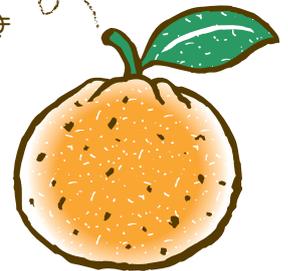
実が締まっていて、重量感のあるヘタ付きの夏みかん・甘夏を選びましょう。ヘタがないものは、味や成分が低下します。

## 📌 注目

夏みかんは古くは「ダイダイ」と言われていました。これは、花が咲く頃、まだ樹に果実がなっており子と親が一緒にいるという意味から「代々」と名付けられたとのこと。

また、山口県内の道路に設置されているガードレールの多くが黄色をしているのは、県花である夏みかんをイメージして、昭和38年山口国体の際に塗り替えたためです。

ヘタ付き



山口県道路のガードレールは夏みかん色！

